

技術委員会報告

理事・技術委員長 谷川 力

新型コロナウイルス感染症蔓延の中、2020年11月および2021年1月、3月にいずれもZOOMによるオンライン会議で行った。出席者は清水一郎会長、元木貢副会長、安居院宣昭顧問、小松謙之技術副委員長(シーアイシー)、伊藤弘文(東京三洋)、木村悟朗(イカリ消毒)、佐々木健(アベックス産業)、芝生圭吾(鵬凶商事)、峯岸利充(国際衛生)、森義之(三共消毒)、渡邊賢太郎(帝装化成)、そして谷川が参加した。

以下、最後の3月の会議を中心にトピックをまとめた。

1) ヒアリ駆除について

環境省案件のヒアリ対策については、コンテナヤードの生息調査を2021年4月に実施した。本調査で生息が認められた場合は駆除を行う予定であったがヒアリの生息は確認できなかった。2021年1月は確認できたが4月に確認できなくなった。1月に確認された理由は、昨年末のIGR剤の効果で新ワーカーは発生せずコロニーは崩壊していたが、ワーカーの寿命は30℃でも60～120日であること、さらに低温による活性低下から寿命が延長し年を越した虫体が1月に見つかったと考えられた。しかしながら、外気温の上昇してきた5月に入り、本原稿執筆中の5月20日に青海埠頭でヒアリが確認され、駆除作業に入ることが決定した。

2) 某場所でのアリ調査

調査研究グループ技術委員会では、本来の目的の一つである都民の安全を守ること

が重要である。今回、海外から害虫が入りやすい場所でアリの調査を実施した(写真1)。その結果、某場所では外来性のアリは確認できなかった。この場所はスポーツ広場で子供たちが野球やサッカーの練習をしている。これからも安心して練習ができる環境となった。なお、見つかった種類はクロヤマアリ、クロオオアリ、トビイロシワアリ、トビイロケアリ、オオハリアリ、アズマオオズアリ、ウメマツアリ、キイロシリアゲアリである。ほかにゴキブリ等の生物調査を並行して行った(写真2)。



写真1 某場所のアリ調査



写真2 アリ以外の生物調査

3) 東京オリンピックおよび新宿御苑演習

コロナ禍での来日者の現状から積極的な行動は難しいので情報収集のみとする。

4) IPM維持管理要領の見直し

厚生労働省での特定建築物の見直しを検討する中、ねずみ・衛生害虫類も維持管理水準を検討する必要性はある。すでに日本ペストコントロール協会では、全国ビルメン協会と連携して活動している「害虫防除業中央協議会」を通じて3000㎡未満のビルのねずみ等の衛生状況を調べた。その結果、3000㎡以上の建築物に比べ、衛生状態が悪いことがわかった。そのため、技術委員会では以前提案された維持管理水準を見直す機会と考えた。すなわち、その時代にあった水準の提案を検討する必要性を感じている。具体的にはIPMの理念、モニタリング、

指数・捕獲数、現場で使いやすい水準の検討、特に現場では「ネズミやゴキブリのように生息ゼロを望む種類」、「蚊、ハエ・コバエ、ダニのように生息をゼロにできない、もしくはゼロを求めている種類」、さらには新たに必要なトコジラミにわけて検討する必要がある、事前に技術委員で作成する活動をしている。

次回技術委員会は2021年6月3日(木) 14時からZOOMでの開催予定をしている。

*技術委員会では2)のように、都民の生活に支障がある害虫獣の防除に関する研究をしている。読者の中で問題となる案件があれば、ご要望をいただきたいと考えている。何かお困りの案件があれば是非、東京都ペストコントロール協会を利用していただきたい。

